

学校教育評価表 (小・中学校)

学校名 大津市立木戸小学校

評価の基準 (3:よくできた 2:できた 1:あまりできなかった 0:まったくできなかった)			自己評価	関係者評価
	評価の観点	自己評価	現況と今後に向けて	関係者よりご意見
主体的・対話的で深い学び	1 学級・学年集団づくりの実践	2.6	◎上学年の児童が下学年の児童に教えてあげたり、下学年は上学年のために静かにするなどお互いを思い合えるようになった。 ☆単級の学年は、担任への負担が多く、担任の個性や考え方が、良くも悪くも色濃く子どもに影響する。そのため、担任外(教務、他学年、地域の方々等のゲストティーチャー)からの関わりをもつ必要がある。	2.9
	2 協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善 (ICTの活用を含む)	2.8	◎タブレットを使ってeライブラリやメタモジの配信機能を活用し、個人の文章でのコミュニケーション能力の育成を進めることができた。 ☆教員のタブレット研修がさらに必要であるとともに、子どもたちにタブレット端末の活用方法・インターネットの使用のルールや身を守ることに啓発をしなければならない。	
	3 主体的・対話的で深い学びを追究する授業研究や研修会	2.6	◎OJTなどで他クラスの授業や子どもの様子を知る機会が増えた。 ☆職員のさらなる研鑽を図るため、研修など講師を呼んだりして外部の指導が欲しい。	
道徳実教育の	4 生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育てる活動の実施	2.8	◎道徳参観で、保護者の方に授業や子どもの様子を見てもらう機会があつてよかった。 ☆「しね」などの暴言が当たり前(口癖)になっている児童がいる。児童や教師の人権意識を高めていく取り組みを考えていく必要がある。	2.8
	5 道徳の授業研究や資料の開発・整備・交流	2.4	◎木戸っ子水族館で生き物を飼育することで、生命を大切に思う心を日常的に育むことができた。 ☆特別支援学級における道徳教材の開発・教員の工夫および評価に関する研究が必要である。	
	6 保護者等への道徳の授業公開	2.8		
体力づくり	7 たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善	2.5	◎本年度、木戸リンピックを通して、遊びながら運動に親しませる取り組みや、びわこ成蹊スポーツ大学と協同で体育の授業などができた。	2.8
	8 体力づくりを推進する運動実践	2.4	◎日常的に体を動かす楽しさ、仲間と共に運動する喜びなどが感じられるよう、声掛けや見守りを行った。 ☆大学との交流を今後も継続し、体育の授業を活性化させる。	
	9 体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする意欲の育成	2.5		
計画(指導)的改善・組織的改善	10 学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善	2.7	◎百文字作文やスマールトークなど、全学年統一して取り組むことができた。 ☆今後も書く力を向上させるべく、自分の思いや意見を自分の言葉として書く取り組みを継続していく。	2.8
	11 教職員の指導力及び組織的な教育力の向上	2.4	◎校内研究を推進し、デジタルで資料や記録を残しておくことで、変化を可視化し、振り返りしやすくなった。また、授業研究を後から参照しやすくなった。 ☆本年度のOJTの取り組みでも行ったが、来年度も教職員が日常的に他クラスの授業を見て学ぶ習慣をつけていく必要がある。	
	12 働き方改革の取組と教育活動の質の改善	2.6	◎勤務時間を意識した働き方を実施できた。 ☆可能であれば保護者が我が子との会話(褒める)きっかけとなるので、学校から連絡があるとなお良い。	
育ちと学びを支える連携	① 家庭・地域との連携			2.8
	13 保護者の子育てに対する積極的な支援	2.4	◎気になることがあれば積極的に保護者連絡をして、情報共有に努めることができた。 ☆情報化社会における個人情報の管理や、子どものSNSによるトラブルなど今後も研修が必要である。	
	14 保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用	2.4	◎総合的な学習の時間や社会科、生活科の学習で地域の方にお話をさせていただき、学習の理解が深まった。また、マラソン大会での保護者の方々のサポート、PTA主催のイベントも積極的に行ってくれた。 ☆手洗いやマスク等、冬季を中心に感染症予防について学ぶ場を設定する。 ☆家庭学習を増やして欲しい親と各家庭の課題があるため最低限で良い親のバランスがとれるようなシステムがあれば良いと思う。 ☆SNSトラブル事例などプリントとして配布があれば親も身近に感じると思う。	
② 保幼携小中の連携	16 子どもの校種間交流や教員の出前授業	2.2	◎幼稚園との55交流や1年生の交流、または園児が日常的に木戸小の行事を参観するなど保幼小の連携を進めた。また中学校の出前授業など、子どもの進学や入学を意識した時期に設定しており、効果的であった。	2.5
	17 校種間の授業公開や合同研修会	2.1	☆幼小連携のプログラムを確立し、年々引き継いでいけるものとする。 ☆各学年が取り組んでいる保幼小中連携事業を全職員に周知する。	
	18 保幼小中接続期の教育課程等校種間のカリキュラム研究	1.9		
組織的体制の充実	① 生徒指導体制			2.7
	19 いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導 ※	2.8	◎生徒指導上の諸課題を発見したときには、早期にケース会議を持ち、校内連携して対応に当たることができた。 ☆今後も担任が得た児童や家庭に関する情報を職員で共有し、いじめや行き渋りの早期発見に努める。	
	20 生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進 ※	2.8	◎学校だけでは対応できないケースについて、関係機関と連携しながら対応することができた。 ☆保護者の方と連携をとり、子どもの課題や子どもとの関わり方について共通理解を図り、学級運営にあたる。	
② 特別充実支援教育	21 家庭・地域・関係機関との連携による指導	2.6		
	22 個別指導計画の作成と活用	2.8	◎年度当初に個別懇談を実施し、保護者の方の思いや願いを聞くことで、個別の指導方針を保護者とともに話し合い、その後の経過を見ながら、指導・支援のあり方を探っていくことができた。	2.8
	23 組織的・計画的な特別支援教育体制の確立	2.6	◎学校だけでは対応できないケースについて、関係機関と連携しながら対応することができた。 ☆校内での協議をもとにそこからどのような機関と連携していくか、またよりよい支援方法など研修を重ね特別支援教育のさらなる充実を図る。	
24 関係機関と連携した相談体制の充実	2.5			

※ 特にいじめについては、学校基本方針の評価と関連させて行うこと

学校満足度	25	児童生徒の学校満足度	2.70
-------	----	------------	------

※ 児童生徒アンケートのすべての評価の平均値(3点満点、小数第2位まで記入)	2.61
--	------

※ 保護者アンケートのすべての評価の平均値(3点満点、小数第2位まで記入)	2.30
---------------------------------------	------